

## 令和3年度 第1回高等学校入学者選抜審議会 記録

令和3年7月29日(木) 10:00~11:30  
 県庁11階 第二会議室

## ＜審議会委員＞

柴山 直 委員長, 田端 健人 副委員長, 川嶋 輝彦 委員, 鎌田 美千子 委員, 浅野 直美 委員,  
 本郷 栄治 委員, 伊藤 宣子 委員, 清水 祐子 委員, 高橋 恭一 委員, 荒井 雅行 委員,  
 佐々木 克敬 委員, 松見 早苗 委員, 徳能 順子 委員, 高橋 賢 委員  
 (欠席: 坪田 益美 委員, 村上 善司 委員)

## ＜県教育委員会＞

伊東 昭代 教育長, 遠藤 浩 副教育長, 佐藤 顕一 教育企画室副参事兼総括室長補佐,  
 千葉 睦子 参事兼義務教育課長, 遠藤 秀樹 高校教育課長  
 (欠席: 布田 秀一 副教育長)

事務局	(資料の確認) (公開の確認)
	(開会)
事務局	(委嘱状・辞令交付) (委員の紹介)
伊東教育長	(教育長あいさつ)
事務局	(県教育庁関係出席者紹介)
事務局	(委員長 司会進行開始)
委員長	それでは次第に従って進めて参りたい。 まず、報告(1)「令和3年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について」、事務局から報告をお願いします。 なお、質疑についてはその都度、時間をとりたいと思う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	以上の説明について、御質問、御意見があればお願いします。
鎌田委員	質問というか、保護者として一言申し上げたいと思う。昨年度、コロナの状況で受験が非常に心配され、この審議会でも皆様の御協力で生徒たちのために様々考えてくださり、本当に感謝している。保護者も本当に心配であったし、生徒の方も非常に頑張ったと思うが、このような時に、柔軟に対応するのは非常に大事で、生徒たちが誰ひとり、自分の思ったところを諦めないようにしてあげることが非常に大事だと昨年は感じた。関係各所の皆様のおかげで、おかげさまで本当に無事に入学式を迎えられほっとした。本当に関係各所の皆様に感謝申し上げたい。このようなことは今後もあるかもしれないので、これからも県の皆様の御協力で、県の生徒たちのために柔軟に進めていただきたいと思っている。
委員長	大変ありがたいお言葉いただき、本当にありがとうございます。 高校教育課長はじめ、本当に様々な意見を集約していただき、手探りの中、本当によく準備して下さった。私からもお礼を申し上げる。  では、次に、報告(2)「令和4年度宮城県公立高等学校入学者選抜について」、事務局から報告願う。
事務局	(事務局より説明)
委員長	以上の説明について、御質問、御意見があればお願いします。
委員長	特にないので、報告についてはこれで終了し、次に進んで参りたいと思う。 では、次に、報告3の「全国募集について」、事務局から報告願う。

事務局	<p style="text-align: center;">(事務局より説明) (第3回専門委員会の報告は田端専門委員長から)</p>
田端専門委員長	<p>それでは私から、第3回専門委員会の審議の概要についてご報告する。 資料2の7ページを御覧いただきたい。 第3回専門委員会では、全国募集のモデル校実施案について、事務局からの原案をもとに審議をした。 審議内容については、10ページを御覧いただきたい。 (1)モデル校の選出については、まず条件設定と審査基準を審議した。受け入れ体制が整っていることは必須条件とはいえ、あまりハードルを上げ過ぎず、一定の条件をクリアした地域と学校を、県教委からプッシュして、実施する方向性でまとまった。(2)の出願資格についても、ハードルを上げすぎないようにする配慮が必要でありながらも、身元引受人、実施校・県教委の役割、首長が身元引受人を務める場合の役割等については整理が必要だろうという結論であった。いずれにしても、生徒保護者の安心安全を第一に環境を整える必要があることが確認された。11ページの(3)の実施期間については、効果検証を行いながら、5年程度の実施年数で実施し、効果検証の方法については、まだまだ検討の余地があるということだった。(4)の募集定員、選抜についても、県内生徒の圧迫をしないよう配慮しつつも、実施時期については慎重に考える必要があるのではないかという意見が出された。 同じく11ページの4を御覧いただきたい。 これまでの審議・経過を踏まえ、全国募集のモデル校実施に向けた方向性は、次のようにまとめた。 全国募集のモデル校については、学校と地域の要望を踏まえ、イ 市町村、地域との連携が確立されていること。ロ 生徒の受け入れ体制の準備が整っていること。ハ 学校学科の教育活動に特色があること。ニ 過去5年のうち3年以上、充足率1.0倍未満の学校といった条件を満たす高校を、県教育委員会が指定するのがよいのではないかという意見となった。実施期間については、令和5年度入試から令和9年度入試までの5年間とするものの、1年ごとに効果検証をすることでまとまった。 ここまでが審議において概ね固まった部分であるが、出願資格、募集定員、選抜については、様々な意見が出ており、検討の余地があろうということなので、これらについては引き続き検討していくこととする。 今後、令和5年度入試からの実施に向けて、専門委員会において、出願資格、募集定員、選抜について引き続き検討していき、第2回入選審において最終まとめを報告する方向で考えている。 少子化の勢いは、すさまじいものがある。これに抗うことがどこまでできるかどうかはあるが、地域と高校等が協力し合い、これまで以上に魅力ある高校を創っていくという方向に、刺激となるような方向で議論を進めて参りたい。 報告は以上である。</p>
委員長	<p>以上の説明について、御質問、御意見があればお願いする。</p>
伊藤委員	<p>ただいまの報告を聞き、また資料を考察し、感じることを述べたい。 全国規模で成功している学校、これしか来なかったのかといった学校、様々であるが、成功している学校は、やはり、魅力ある地域の教育を、ということで、全国規模で集まってきていると思われる。そのような高校は特色がしっかりと打ち出されており、そのような高校で、この高校生活を過ごしてみたい、そして、高校卒業後の展望もはっきりと見えている学校であると、資料を読んで感じた。確かに、新しいことをするには、相当のエネルギーが使われる。そして不安だらけである。でも、子供たちを招き入れるとなれば、一定期間実施をした上で検証し本格導入するかどうかを検討するというのは、不安が多く子供たちに失礼ではないかと考える。やると決めたら、よりよい学校に仕上げてもやるしかない、ということであればわかる。しかし、一定期間検証し、導入するかどうか決めるというような不安材料であれば、やらないほうがよいと思う。 宮城県には、教育の宝がまだまだ埋もれている。全国募集を何のためにするのか。宮城県の全国募集が、全国の子供たちに夢と希望を、そして自分たちが社会を創っ</p>

	ていこうという気持ちにさせていかなければならないのではないかと考えている。先生方の検証を見させていただきながら感じたところである。
田端専門委員長	大変厳しい御意見、ごもつものところがあると考え。ただモデル校で検証と言っても、やる気がないわけではなく、そこは慎重にということで考えている。モデル校の検証も含めて、そこは真剣さの表れと受け取っていただきたい。
委員長	人様のお子さんを預かる側であるから、それなりに幾ら完璧なものをつくりたいとはいえ、なかなか難しいところもあるので、その部分はこのような表現になっていると思うので、そのあたりご理解いただければと思う。 伊藤委員よろしいか。他にあるか。
佐々木克敬委員	報告感謝する。 伊藤委員からもお話があった通り、宮城県でせつかく創るのであれば、きちんと特色ある学校づくりをやった上での受け入れをしなければならない。ただ、自治体の少子化を防ぐために集めるのであればそれは本末転倒な気がする。 ここでしか学べない学びであるとか、そこを卒業して地域おこしに尽力をしたい子供を育てるというきちんとした目的がなければ、ただ、若い人たちを町に集めたいというためだけの学校づくりであれば、難しいと思う。 また県の教育委員会の姿勢としてどうかかわからないが、この新しい学校を創るとき当然のように、予算であるとか、人的配置が厚くなると思う。そのおかげで逆に他でも頑張っている学校の方にしわ寄せがないのかどうか。 そのようなところを誘致した時にきちんと自治体の方で、例えば県ではなくて、市や町の方から援助があって、人であるとか、予算であるとか措置されるのか。 このような学校を創るときに、逆に持ち出しで他の学校が圧迫されるということであれば、疑問である。
委員長	確かに、そういう面はあると思うが、需要と供給の両面があって、今、田端専門委員長から、少子化という、日本全体が抱えている問題というすごく大きな要因があって、一方で、特色のある高校づくりというのも、それはそれでまたとても大切なことで、両面のどちらかから説明するかという話であるので、この辺りは温かく応援いただきたく願う。 佐々木委員よろしいか。他に。
松見委員	資料まとめ大変だったと思うが、拝見し大変勉強になった。全国募集について、今あったように少子化の問題ということで、仙台市内の高校は充足しているが、郡部の学校は、定員割れが続いているという現状がある。その中で、全国募集というのは、他県の状況を見ると、多くの道府県で実施をしており、特に資料から島根県が、非常に良い結果を残しているということがわかった。隣県の鳥取県の先生に聞いてみたが、島根県が成功している事例ってというのは、寮がたくさんある学校があり、住むところがきちんと確保されているということと、あと自然豊かで地域がバックアップをしているというところが、大きかったように思う。 宮城県もそういう少子化の状況を踏まえてということで、地域が限定されてくるとは思いますが、実施をする方向でということは賛成である。ただその際自治体との連携、財政面での配慮、サポートが絶対的に必要だと思うので、その辺のところは今後の課題であると思う。
委員長	貴重な御意見、感謝する。他にあるか。 それでは今の御意見等を受けて、事務局何かあるか。
高校教育課長	まず御報告、そして、多くの御意見に感謝する。 専門委員会の田端委員長からご報告いただいた、全国募集のモデル実施に向けた方向性に従い、今様々な範囲の皆様からいただいた御意見等も踏まえ、出願資格、或いは募集人数等々、詳細については事務局を中心に、後程御審議いただくが、専門委員会を引き続き設置をし、検討を続けていくことに御理解願う。 モデル校について、現時点で、南三陸町及び加美町から、全国募集の導入についての要望書が県教育委員会に提出をされている。この2つの町は、地域を挙げて、地元の高校の魅力化を推進しており、町と学校の連携、それから生徒の受け入れ体制の

	<p>準備というものが、十分に進められていると考えている。志津川高校、それから中新田高校の2つの学校においても、それらの町の期待を受け、教育課程について、新しい学習指導要領の実施に合わせまだ確定できていないところは多々あるが、こちらの方で確認をしたところ、先ほど専門委員会から示された基準を概ね満たしていると判断をさせていただいたところである。</p> <p>それを受け、令和5年度から、この全国募集のモデル実施に向け、志津川高校及び中新田高校を全国募集のモデル校の候補として、今後、準備を進めて行くことを併せて報告する。</p>
委員長	<p>今の2つのモデル校の候補について、御意見等願います。</p> <p>全国募集については宮城県にとっても初めての試みであるが、幸い、自治体の方から大変熱心に取り組んでいただいているようなので、全国募集の出願資格や、募集人数等の課題については、今後も検討を重ねていくことになるが、引き続き検討願う。</p> <p>それでは、次に移りたいと思うがよろしいか。</p> <p>次は諮問となるが、事務局願います。</p>
伊東教育長	(諮問) 「令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」 「令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について」
事務局	(事務局より、諮問の読み上げ確認) (別紙1) 令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について (別紙2) 令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について
	(休憩 5分)
委員長	それでは、審議(1)「令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について」、はじめに、事務局から説明をお願いする。
事務局	(事務局より説明)
委員長	以上の説明について、御質問、御意見があれば願います。 (意見なし) 特に御意見がないようなので、この件については、ここまでさせていただく。
委員長	では、次に、審議(2)「令和5年度宮城県立高等学校入学者選抜日程」について、事務局から補足説明をお願いする。
事務局	(事務局より説明)
伊藤委員	<p>令和5年度の入試については、カレンダー上、土曜日、日曜日は、実施できないということを大前提と考えるべきかと思うが、事務局案としてここに出してきたということは、その可能性もあるという出し方なのか。</p> <p>そうでないのなら、この案1にしかならないということだと思うが、この辺の事務局からのこの案2、案3の見方について説明願う。</p>
高校教育課長	<p>只今の話の通り、カレンダー上非常に厳しいという状況で、従来の3月4日の一次募集学力検査、3月10日追試験、16日の合格発表を、期日を固定化しようとするると土曜日、日曜日に重なってしまう状況となる。</p> <p>事務局としては、土曜日、日曜日ということになると、例えば教員の勤務の問題、それから受験生が受験会場まで公共交通機関を用いて移動するとした時に、バスのダイヤ等が休日ダイヤとなってなかなか時間が合わないといった点も考慮した時に、土日の実施、休日の実施というのは厳しいと考え、案1という形で、諮問をさせていただいたところである。</p>
伊藤委員	<p>学校現場の方としては、私学も公立もなく、働き方改革を考えると、この案2、案3はないだろうと思う。</p> <p>ただ、また私学の立場から申し上げますと、この合格発表を受けて4月の新年度の在籍生徒数が決まるという、大変厳しい状況下に置かれるので、前回もお話申し上げたかと思うが、ウェブ出願とか、何かこの出願時期の短縮化を図れないのかという思いもある。</p>
高校教育課長	<p>私立の高等学校等において、ウェブでの出願が多く実施されているということについては承知をしている。ただ公立高等学校での出願となると、まだ中学校を通して中学校の先生方の指導のもと中学校の責任において出願されるというこれまでの</p>

	<p>考え方があり、それからウェブ出願にかかるシステム構築等を考えると、なかなか早急にそれを実現させるということは難しいと考えている。</p> <p>長期的には、その辺のところも視野に入れて考えていく必要があると思っているが、早急ということは難しいということをお理解いただければと思う。</p>
委員長	<p>本当に難しい問題である。他にあるか。</p>
松見委員	<p>今の話だと、土日は働き方改革の観点からも事務局としても推奨しないということだとすると第1案ということだと思うが、第1案の第二次募集の日程が24日になっているが、これはかなり後ろの日程で、修了式とか、或いは合格者の1日入学、それから教職員の人事異動も絡んでくるので、この日程だと、二次募集については半分以上の学校で実施するので、この案1の方も厳しい。二次入試の実施及び合格発表を1日上げていただくとか、何かできないものかと感じた。</p>
高校教育課長	<p>案1について、第二次募集の合格発表日が24日になっているということについて、例えば資料の5ページの、大きな2番に選抜日程という表があるが、その一番下の欄に第二次募集実施日という項目があり、そこから23日が一番ぎりぎりのラインということで今まで実施をしてきたことが分かる。</p> <p>私どもとしてもこの23日に実施できないかということを検討はしてきたが、合格発表、追試験から一次の合格発表まで事務処理の日程を3日程度確保しなければならないというところから考えたとき、曜日の関係で13日の追試験で17日の合格発表とならざるを得なかった。そこから考えて、第一次募集の合格発表から、第二次募集の出願の日数を平日3日間確保するというところも、残念ながら第一次募集でその不合格になった生徒のことを考えた時に、中学校においては、いろいろと子供たちに対するケア等も出てくる可能性もあるので、平日3日間は必要ではないかと考えている。</p> <p>そのようなバランスの中で、24日という形でこの二次募集を実施できないかと考えたものである。いろいろな御意見があるかと思うので様々な立場、観点から御意見をお願いしたい。</p>
委員長	<p>松見委員よろしいか。他にあるか。</p>
川嶋委員	<p>単純に今皆さんからいろいろ休日の教員の勤務や学生の出願の事、職員の新年度の事などを考えたときに、要するに休日を先生に働かせないということと言うと案1の、第一次募集の学力検査日を3日にするのは卒業式に近くなってしまうのか。もし事務処理の作業が、いろいろかかるというのであれば、単純に一次学力検査日を3日にして、追試験を10日にして、間に鎮魂の日と12日を挟むが、一次合格発表を16日にして、第二次募集の出願を17日、20日、22日にすれば、23日の二次出願がいなくなるので、合格発表を23日に上げるという考えはないのか。それが今皆さんから聞いている案だと一番ではないか。3月1日卒業式で3日に第一次募集学力検査日では近すぎるのか。</p> <p>何となく合理的に考えるとそう見えるが。</p>
遠藤 高校教育課長	<p>おっしゃる通り3日に上げることができれば、今課題になっているところについては一定程度解消できる場所はあるかと思うが、卒業式は3月1日というのがほぼ固定化されている現状で、卒業式があって、1日だけの入学試験の準備ということになると、高校側の準備日程的には非常に苦しくなる。</p> <p>そういうところから、卒業式後2日間は、何とか準備のために日程は最低限確保をしたい。</p> <p>そのように考えた時に、従来だと、例えば令和4年度入試のところをご覧いただくと、3月1日の卒業式で2日あけて3月4日の学力検査という形でできていたが、何度も申し上げるが曜日の関係でそれができないというところから、3月6日月曜日の学力検査実施という形で示させていただいたものである。</p>
川嶋委員	<p>そうであれば、カレンダーに文句をつけるわけにはいかないの、休日を動かしてというわけにもいかない。そうするともう案1しかないのではないかと。</p> <p>卒業式の後に試験を準備するのは大変だ、合格発表を後ろに下げすぎると新年度の準備に時間がかかる、追試験と合格発表の間は3日ぐらいの作業日が欲しい、というのであれば、結論としては1案しかない。これ以上なく、議論する意味があるの</p>

	<p>か。</p> <p>これ以上の判断基準がないのであれば、この3案の中でと言われれば、私は案1しかないのではという意見である。あくまでもその3月3日に上げられないということであれば、卒業式も3月1日から動かせないということであれば、4月からの新年度のことも考えると、これしかも決める余地がないのではないか。</p>
佐々木克敬委員	<p>第一次募集学力検査に関しては、ここの日程でやむなしかと思うが、やはり二次の実施日が3月24日というのは非常に気にかかる場所である。</p> <p>学則上も3月24日までが、学年の終了日になっているはずなので、ここに入試を持ってくるのはいかがなものか。というのは、実は中学校もそうであるし、高校もそうである。学則上でもこれは問題がないのかどうか。3月23日に上げられないのかどうか、検討を願いたい。</p>
高校教育課長	<p>学則は学則としてあるということは承知しているが、それと入試の日程とは別に考えなければならないと考えている。ただおっしゃる通り、この24日というのは高校にとっても中学校にとっても、修了式と重なる場所であるので中学校にとっても高校にとっても苦しい場所はあると正直認識はしている。</p> <p>なお、中学校の校長先生方も本日御出席いただいているので、もし可能であれば中学校の方からも御意見等をお願いしたい。</p>
新井委員	<p>先ほどの話にあった、例えば、3月3日に一次学力検査日を上げるというところを中学校側から話をすると、本試験の面接が土日を挟んで次の月曜日ということになってしまうので、できればそれはやめてほしいと思っている。やはり一次学力検査が終わっての子供の心を考えて、続けて面接をやってもらいたい。しかし、そうすると先ほどの話になって、3月24日の第二次募集の合格発表ということになるが、3つの案の中に案3として、第一次募集の学力検査から合格発表まで10日という案が出ている。それをそのまま第1案に持ってくと追試験から一次発表までは短くなるが、案3があるということは10日間でできるということだと思う。もし追試験から一次発表が短くても実現可能であれば、第1で16日一次発表、23日二次発表も考えられると感じている。</p>
高橋恭一委員	<p>第1案、第一次募集学力検査を3月6日そして面接を3月7日と連続して行い、あともう一つ中学校の卒業式の日程も関係してくるので、基本的には第1案をお願いしたい。</p> <p>また、今あった通り、3月24日に修了式があるが、できれば、3月23日に第二次募集の合格発表を日程等、何とか可能であれば、上げてもらえればありがたい。</p>
清水委員	<p>私は高橋委員と同じで、第1案でいくしかないと思う。熟慮した結果この形で御提案いただいたと思う。ただ、修了式が3月24日のことを考えると、可能であれば合格発表は3月23日にしてもらいたいが、それは事務局の方に、お願いをする。</p>
高校教育課長	<p>御意見感謝する。</p> <p>第1案、第一次募集の学力検査3月6日、追試験が3月13日、そして合格発表3月17日というところについては、概ね御賛同をいただけたかと思っている。</p> <p>なお、第二次募集については、案1として3月24日でお示ししたが、3月23日という御意見も多くあるので、この本日いただいた御意見を今後さらに関係各所等々と話を進めながら、検討していきたいと考えている。</p> <p>ただ、1点先ほど触れたが、第1次募集の合格発表後の、不合格になったお子さんへのケアというところを考えて、平日3日間の出願日の設定を考えていたところだったが、そこが1日減るということも、あわせて御理解をお願いしたい。</p> <p>なおこちら事務局として、検討を続けさせていただく。</p>
委員長	<p>それではこの(2)方針及び日程については、本日のご意見を参考に、まだ何かあるかもしれないので、慎重には慎重を重ねてさらに考えていただき、事務局の方でも各方面との調整等含めて検討をお願いしたい。</p>
高橋恭一委員	<p>先ほど第二次募集について、合格発表を3月23日に申し上げたが、これは3月17日の合格発表を1日上げていただいているということが大前提で、やはり平日の3日間は確保していただければと思う。</p>
委員長	<p>引き続き検討していくということで、これに関する結論は、次回に持ち越しとい</p>

	<p>うことでよろしいか。  (意見なし)  それでは異議がないので、諮問案についての審議は以上とする。  では、次に審議(3)「専門委員会の設置について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(事務局より説明)
委員長	<p>以上の説明について、御質問、御意見があればお願いします。  (意見なし)  全国募集の制度設計、新しい入試制度の一層の定着に向けた改善、どちらも十分な検討が必要であり、専門委員会の役割は非常に重要になる。本委員会から専門委員に選ばれている方が4名いるが、田端委員、浅野委員、清水委員、高橋委員、計4人の皆様には専門委員会の委員としてよろしく願います。  委員の皆様から何かあるか。  (特になし)  それでは、専門委員会の設置について認めることとする。  それではその他ということで、事務局よりよろしく願いたい。</p>
事務局	(次回の予定について、事務局から説明)
委員長	本日の審議は以上とする。進行を事務局にお返しする。
事務局	(閉会)